

国外実態調査報告書

ゼミ名 : 木立 真直ゼミ
訪問先 : モナシュ大学 (Monash University)
訪問日時 : 2019年9月3日(火)15:30~17:00
ご対応者 : Professor, Dr. Harmen Oppewal
Senior Lecturer, Dr. Samir Gupta
訪問人数 : 学生 17名 教員 1名 計 18名

【調査目的】

商品開発とオーストラリアの小売業について学ぶ

【調査結果】

9月3日(火)のモナシュ大学レクチャーでは、まず初めに、木立先生からモナシュ大学のキャンパスを案内して頂いた後に教室に移動し、グプタ先生とオペワル先生のお二人から講義をして頂いた。

最初にグプタ先生より商品開発についてお話して頂いた。冒頭にてインドでの髭剃り販売の例を用いて商品開発の過程を教えて頂いた。商品開発は、創出されたアイデアを詳しく調査し、それをより具体的に形にし、市場において検証を行ったのちに製品化、という流れで行われる。次に、グプタ先生が開発に携わった耳掛け式の生体監視装置のお話を伺った。生体監視装置とは、患者の心拍数、体温、血圧を測る装置である。従来の装置はケーブルが多く、本体が重いため不便であったため、改良する必要がある。新型装置は耳掛け式であるため軽量かつ小型で、タブレットなどデバイスと連携することで、瞬時にデータが送られ患者の容態や救急車の走行位置が病院へ送信される。高価であるため幅広い世代の方々に利用してもらうのは容易なことではないが、今後の実用化が期待される。グプタ先生が実際に開発に携わった装置のお話を伺ったことで、商品開発の重要性やそのプロセスについての理解を深めることができた。

次に、オペワル先生よりオーストラリアの小売についてお話して頂いた。先生のお話の冒頭では、以前日本を訪れた際に視察された百貨店「大丸」で感じたことをお話して頂いた。百貨店はオンラインショッピングの普及により、徐々に衰退している。手に取って感じ、それを家に帰ってからオンラインで購入するという流れが消費者に定着しつつある。同じことが日本だけでなく、オーストラリアでも起きている。そうした状況下で、メルボルンではKauflandという大型ストアが来年オープンする。立地もよく、本社も近いことから、消費者にオンラインではなく実際に訪れて購入してもらう良さを感じてもらえるチャンスとなる。

ご講義のあと、お二人に学生からの質問に答えていただいた。オペラル先生より、「ユニットプライス」について詳しく説明して頂いた。オーストラリアのスーパーでは、ユニットプライスという日本ではあまり馴染みのない価格表記がされている。類似品を容易に比較するためのもので、例えば食品であれば 100 グラムあたりの価格を提示している。以前は単位や表記に関するルールが曖昧であったため容易に比較することは難しかったが、法改正によりそれらが厳格に定められた。その結果、消費者は類似品の価格を瞬時に比較し、購入することが可能である。オーストラリアの小売において特徴的なものであり、非常に興味深かった。翌日以降の小売視察では、実際にユニットプライスを目にした。ご講義のおかげで、より深く理解をすることができた。

最後に、授業をしていただき、学生からの質問にも親切に答えてくださったオペラル先生とグプタ先生に心からお礼申し上げます。誠にありがとうございました。



オペラル先生、グプタ先生によるご講義

(文責：河上 拓矢、林 凜子、暮石 亮、細川 美緒)